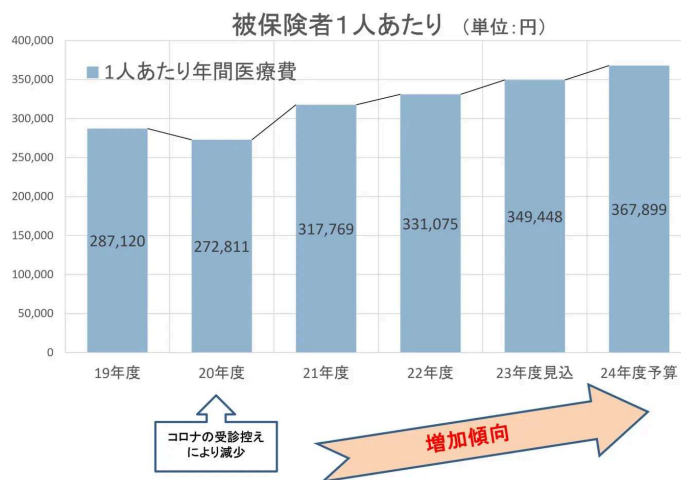


朝日健保の医療費分析結果について

吉田 裕紀

新型コロナが世界的に流行して以降、国内外における医療をめぐる事情は劇的に変わりました。国内の医療費は増加しており、現在発表されている2021年度の国民医療費（人口一人当たり）は、コロナ前の19年度に比べて2%増となっています。一方で、朝日新聞健康保険組合（朝日健保）の医療費は、「国民医療費」に比べると、大幅に増加したことがわかりました。19年度比で10.7%増、24年度（予算ベース）と比べると、実に28%増にもなりました。（図①）なぜ朝日健保の医療費はこれほど増えたのか。その要因を探るため、過去5年間の当組合の医療費を分析しました。

保険給付費(医療費)の推移

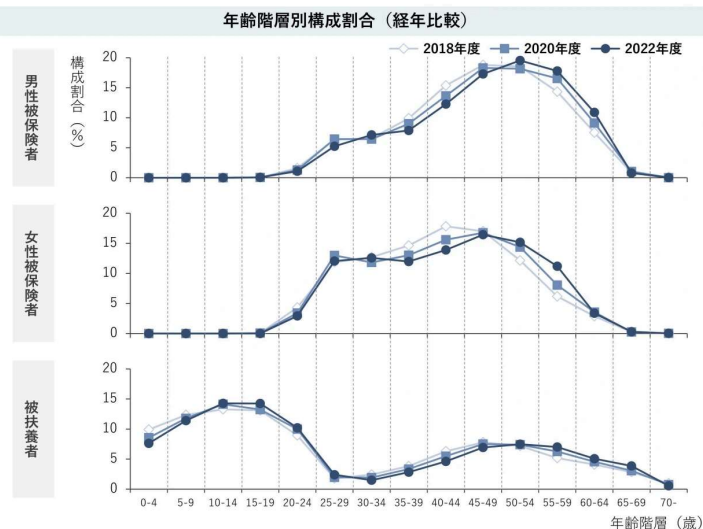


図①

まず図②は、過去5年間の当組合の加入者の年齢構成の変化を表したグラフです。グラフの山が右に動いていることがわかります。男女ともに、被保険者の30代後半から40代前半の層が減っている一方、50代から60代前半が増えていることを示しています。

加入者特性〈5か年の構成割合比較〉

男性被保険者は30代後半～40代が減少、50～60代前半が増加している。女性被保険者は30代後半～40代前半が減少、50代が増加している。被扶養者は10歳未満・30～40代が減少、10代・50代後半以降が増加している。



© JMDC Inc.

図②

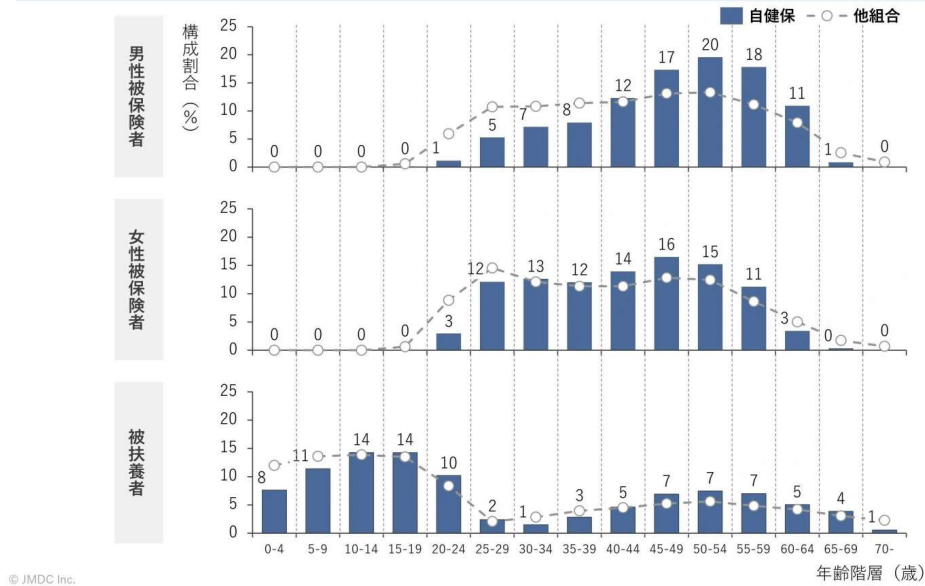
続いて図③は、分析を委託した株式会社JMDCが取り扱う350組合、750万人の加入者の平均値との比較です。棒グラフが当組合、折れ線が平均値です。当組合の被保険者の年齢構成は、40代後半から60代前半にかけての層が平均より多く、男性の20代から30代の若年層が少ないことがわかります。被保険者の平均年齢は、当組合は46.2歳、他組合は42.7歳でした。

加入者特性〈属性・年齢階層別加入者構成割合〉

※年度：2022年度

他健保と比較して男性被保険者は40代以降の割合が多く、20代・30代は少ない。女性被保険者は30代～50代の割合が多く、20代が少ない。被扶養者は10代～20代・40代以降が多く、10歳未満・30代が少ない。

2022年度 年齢階層別構成割合（他組合比較）



© JMDC Inc.

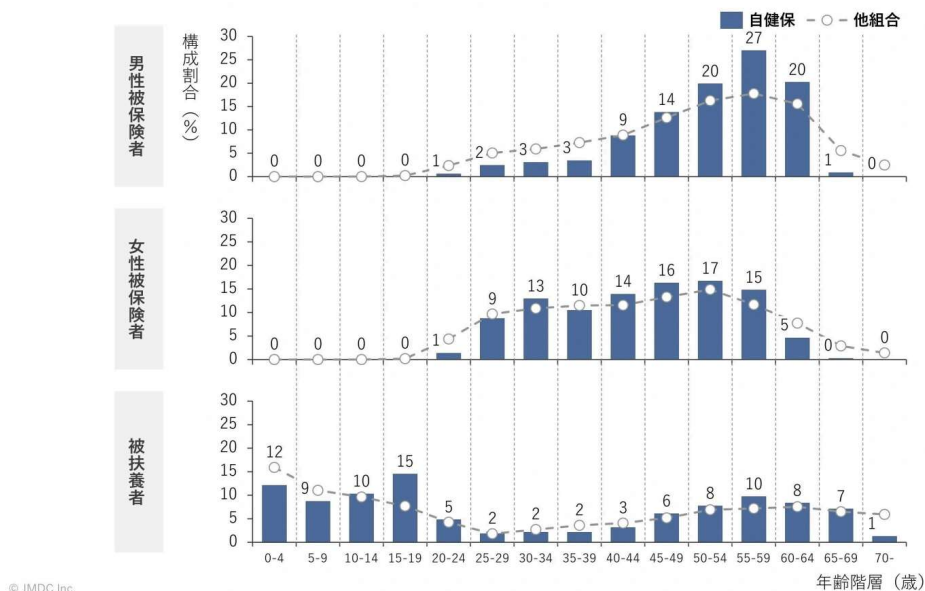
図③

図④は、同様に他組合との比較で、年齢階層ごとの医療費の比較です。やはり加入者数の分布に比例して、当組合では40代後半から60代前半の医療費が他組合に比べて高いことがわかります。特に男性の50代後半の医療費が目立ちます。生活習慣病のうち、重症化する可能性のある「糖尿病性合併症」「脳血管疾患」などの患者数の推移を表したグラフが図⑤ですが、やはりこの5年間で増加しています。加入者の高齢化は、特に生活習慣病の発症に影響を及ぼすことが考えられます。

医療費分析〈2022年度 年齢階層別の医療費構成割合〉

※年度：2022年度

他健保と比較して男性被保険者は40代後半～60代前半の割合が多く、20～30代が少ない。女性被保険者は30代前半・40～50代が多く、20代・60代が少ない。



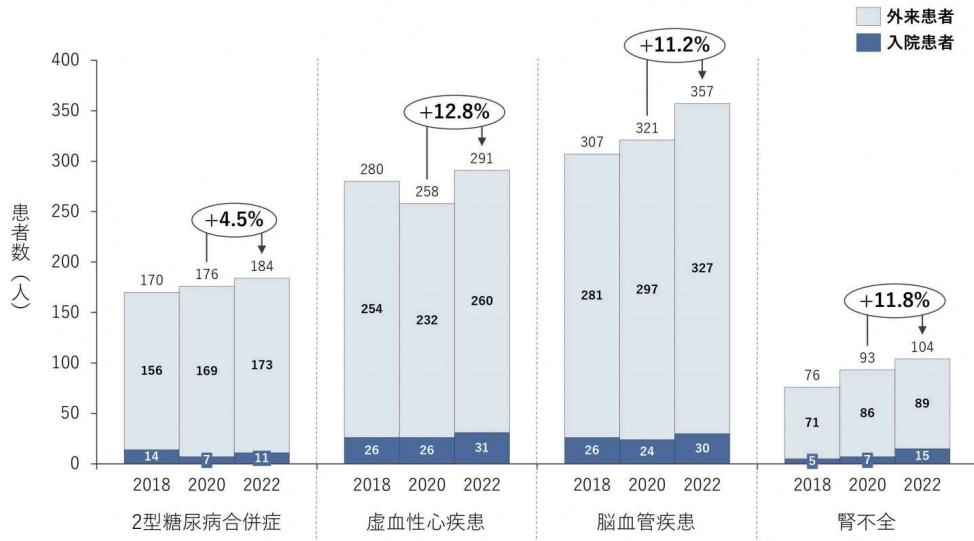
© JMDC Inc.

図④

生活習慣病対策 重症化予防 主な疾病の患者数推移〈入院・外来別〉

※対象レセプト：医科
※疑い傷病：除く
※外来患者：各年度内に1度も医科入院レセプトが発生していない患者
※入院患者：各年度内に1度以上医科入院レセプトが発生している患者

生活習慣病重症疾患の患者数は、いずれも増加傾向。2022年度では2021年度より入院患者数が増加している。



© JMDC Inc.

図⑤

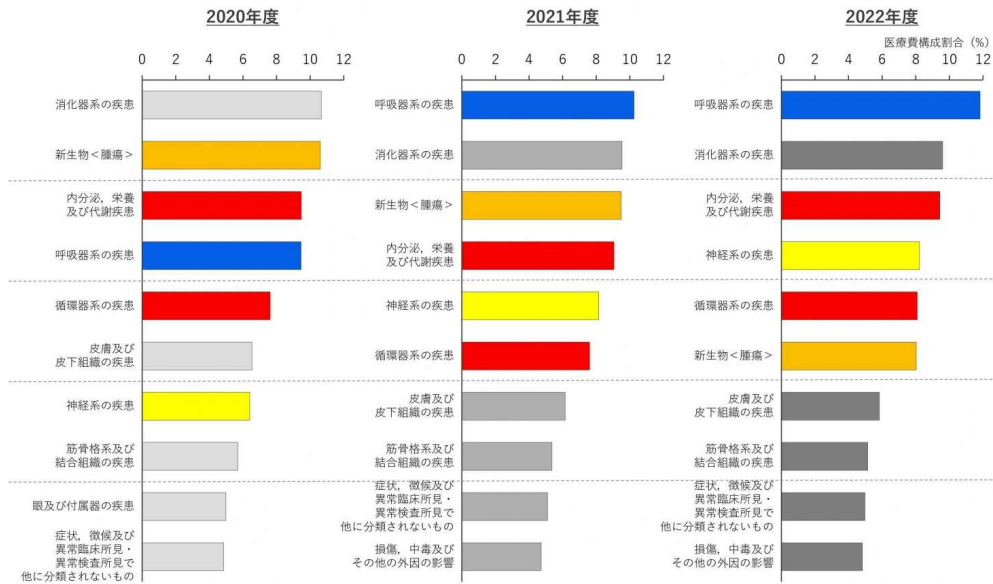
次の図⑥は、当組合加入者の疾病別の医療費の構成割合です。新型コロナ発生当初の20年度は、消化器系疾患が1位、呼吸器系が4位でしたが、21年度から呼吸器系が1位に変わっています。これは明らかに新型コロナ、およびコロナ疑いで受診が増えた結果です。図⑦も疾病別のグラフです。折れ線グラフが受療率、棒グラフが患者当り医療費の推移です。受診頻度が高いのは、先ほど説明した呼吸器系疾患（一番左）ですが、単価が最も高いのは神経系疾患（左から4番目）、続いて循環器系疾患、新生物となります。

神経系疾患の単価がなぜ高いのでしょうか。これを調べるため、患者単位の医療費を見たところ、お一人で年間5,900万円を筆頭に、いわゆる難病に属する疾病の高額な診療が増えていることが要因とわかりました。これまで保険が利かなかった高度先進医療が保険適用される事例が最近増えています。当組合では1カ月の間、同じ医療機関で2万円を超える自己負担をした方には、その超過額を還付する付加給付制度を設けており、健保組合ならではの優れた保険制度と言えますが、その支出単価も増える傾向となっています。

疾病分析〈ICD10大分類別 医療費構成割合 上位10〉

※医療費抽出方法：PDM法
※対象レセプト：医科、調剤
※疑い傷病：含む

新型コロナウイルス感染症の流行に合わせて呼吸器系疾患の割合が増加している。
その他、神経系疾患の割合も増加している。



© JMDC Inc.

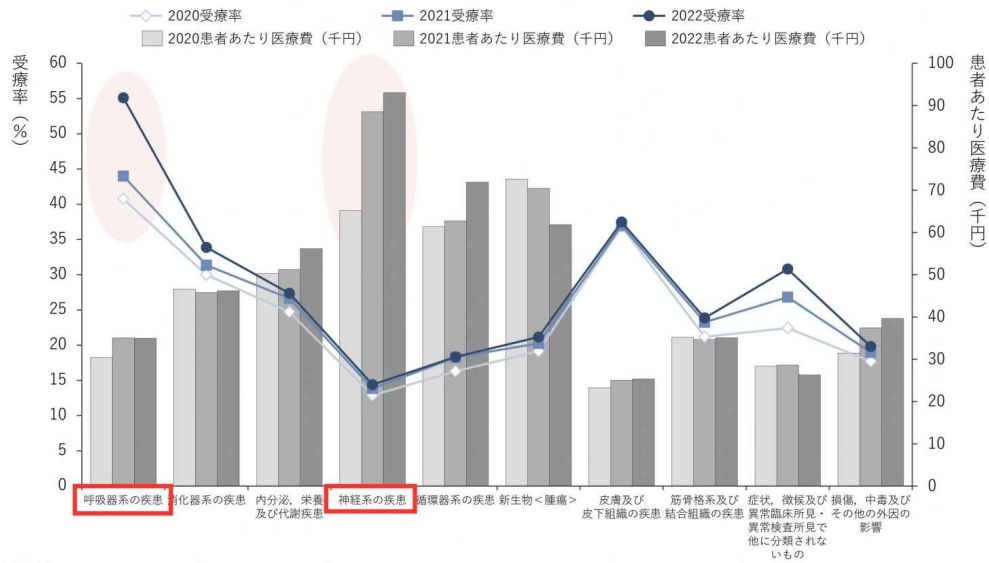
図⑥

疾病分析

〈ICD10大分類別 医療費構成割合上位10の受療率と患者あたり医療費〉

※医療費抽出方法：PDM法
※対象レセプト：医科、調剤
※疑い傷病：含む

新型コロナウイルス感染症の流行に合わせて呼吸器系疾患の受療率が増加している。
神経系の疾患の患者あたり医療費が2021年度以降高い状態にある。



© JMDC Inc.

図⑦

以上の分析を踏まえ、当組合の医療費の増加には、以下の要因があることが推測されます。

- (1) 加入者の年齢階層の高齢化
- (2) コロナ関係医療の増加
- (3) 高度先進医療の保険適用の増加

このうち(2)については、他の医療保険者でも同様の事象が起こっていると思われますが、(1)は当組合ならではの要因であり、今後さらにその傾向が進むことが見込まれます。また、(3)も加入者の高齢化が背景にあると思われます。

当組合では生活習慣病の予防やがんの早期発見を目的とした事業を多数実施していますが、今回の分析結果を参考に、健康リスクの高い層に対するアプローチを今後より一層強化してまいります。

- 当レポートは、当組合が疾病予防等の保健事業を委託している株式会社JMDCに調査、分析を委託し作成しました。

(朝日新聞健康保険組合事務局長 吉田裕紀)